



「ほかの医療施設で『治療できない』と言われた患者さんのなかには、治療できますよというひととて涙を流される方もおられます」と教授。



この日執刀したのは、顕微鏡下にて行なうリンパ管静脈吻合(ふんごう)の手術。患者は子宮がんの手術後、下肢に発症したリンパ浮腫に悩んでいたという。

## Plastic Reconstructive & Aesthetic Surgery



「得意淡然失意泰然」。常に平常心を維持して手術に取り組むように心がけています。プライベートでは、週末の気分転換に料理をしたり、読書をしたり…。特に歴史書が好きですね。

**山下修二 教授**  
Yamashita Shuji  
■ 専門医  
日本形成外科学会形成外科専門医

マイクロサージャリーで用いる最小の針は、30ミクロン(0.03mm)。この細さにより血管や神経を縫い合わせることができる。



カンファレンスでは、医師や看護師が一堂に会し、患者やその治療についての細やかな情報を共有している。



## 医療最前線

»»vol.83

川崎医科大学附属病院  
形成外科・美容外科

Report!

# 患者の悩みに寄り添う治療で、その後のQOLの向上も目指す。

さまざまな再建手術で、機能的・整容的な向上を図る。

川崎医科大学は、中・四国地方でも早く、一九七五年に形成外科学教室を開設。以来、同附属病院形成外科、美容外科では再建手術や小児形成、外傷を中心に形成外科全般の治療に取り組んでいる。近年は、リンパ節切除(郭清)を伴う乳がんや子宮がん、卵巣がんの手術後にリンパの流れが悪くなり、病的なむくみが起こるリンパ浮腫や、乳がんの治療によって失われたボディイメージを回復する乳房再建手術、まぶたが垂れ下がって目が開けにくくなる眼瞼下垂などの治療に注力している。

なかでもリンパ浮腫は、かつては治療法がないとされていたため、外科的な治療後にリンパ浮腫で苦しむ続ける患者が多かった。その治療を可能にしたのがマイクロサージャリーという手法。手術用顕微鏡下で0.3ミリ前後の血管やリンパ管、神経を繋ぐこの手法がさまざまな再建手術に応用されるようになったことで、治療が可能となったのである。技術的な難しさから、積極的に取り組む医療施設は全国的にも少ないといわれるなかで、この手技を得意とするのが、当科を率いる山下教授。「当科では、マイクロサージャリーはもちろん、それよりさらに細かい針系を使うスーパーマイクロサージャリーも駆使しています。国内でもこの手技ができる医師は多くはありません」と山下教授は話す。

また、乳房再建でもその技術はひと役買っている。「人工物ではなく、腹部や大腿部の脂肪組織を血管がついた状態で採取し移植する再建にも力を入れて取り組んでいます。筋肉を犠牲にすることがなく、侵襲を最小限にすることができると話す。そのほか、この技術により、従来の治療法では大切断を余儀なくされていた糖尿病性足壊疽や重症虚血肢などの症例であっても、切断せず治療が可能となる場合があり、治療効果が飛躍的に向上しているという。

山下教授が牽引する当科では、女性に多い乳房再建やリンパ浮腫だけではなく、頭頸部再建や筋肉移植、神経移植、切断された指の接合さえ可能とするこの手技で、機能的・整容的な向上を図るとともに、さまざまな患者の悩みを解消・軽減し、その後のQOLをも高めている。

「外科医師は、例えば〇・〇秒でも早く走ろうと血のにじむような努力を重ねた結果、観衆に大きな感動を与えるアスリートに似ていると思います。誰よりも技術を習得したいと研鑽を積み、その技術は患者さんに還元されます。そうしてお役に立つためには、一生腕を磨き続けることが最も大切」その言葉とおり、山下教授は治療効果のさらなる向上を目指し、日進月歩で進化する術式に日々取り組んでいる。

お問合せ  
川崎医科大学附属病院  
倉敷市松島577  
☎086462-1111  
<https://h.kawasaki-m.ac.jp>